

中国における科学系インフルエンサーの 活動に関する分析

—ソーシャルメディア時代の科学コミュニケーションとして 評価する—

LI Jing

研究の背景

科学コミュニケーションとは、科学者と市民との間でなされる双方向的なコミュニケーションであり、そのためのマインドである。科学者の研究は通常、専門性が極めて高く、一般市民にとって理解しにくい。逆に、科学に関する市民の不安、関心のある問題を科学者に伝達することも困難である。そこで、科学者と市民の間でコミュニケーションの橋渡し役を担う第三者の存在が重視されるようになった。このような人は科学コミュニケーターと呼ばれている。

それに対して、ソーシャルメディアの普及に伴い、欧米や中国では、ソーシャルメディアで活躍しているインフルエンサーのなかで、科学分野に専念する人々が注目を浴びている。このようなインフルエンサーは英語で「Science Influencer」と呼ばれている。日本語では「科学系インフルエンサー」と呼ぶのが妥当であろう。科学系インフルエンサーたちはソーシャルメディアを媒介として、科学に関する記事を執筆したり動画を制作したりし、難解な科学知識を分かりやすくユーザーに伝えるだけでなく、科学者と市民（ユーザー）の間の新たな科学コミュニケーターの役割を果たしていると言える。というのも、彼らは、ユーザーが関心を持っている問題を敏感に察知でき、ユーザーとのコミュニケーションには双方向性があり、その影響力は科学者も無視できないため、彼らの活動をソーシャルメディア時代の科学コミュニケーションとして評価できるためである。

しかし、科学系インフルエンサーがユーザーたちとの双方向的なコミュニケーションを深めるとともに、ネガティブなフィードバックを受け、いわゆる「炎上」に発展することもあるのが、大きな課題である。炎上を経験した科学系インフルエンサーにとって、過激なネガティブフィードバックと誹謗中傷に対する態度や対処方法はどのようなものなのだろうか。炎上の経験は彼らの科学コミュニケーショ

ン活動にどのような影響を与えるのだろうか。この問題を解決できれば、ソーシャルメディア時代の科学コミュニケーションを促進することが期待できる。

研究の目的

そこで本研究は、中国の科学系インフルエンサーの活動を分析し、ソーシャルメディア時代の科学コミュニケーションとして評価することを目的としている。また、中国の科学系インフルエンサーが直面している炎上現象の様態を解明し、ソーシャルメディアでの科学コミュニケーションにおける葛藤とその対策を明らかにすることを目指す。

研究の方法

本研究では、まず欧米、日本、中国それぞれの科学コミュニケーションの歴史を整理するとともに、科学系インフルエンサーの誕生とその役割について考察した。次に、中国のソーシャルメディア（Weibo、WeChat、TikTok など）上で科学コンテンツを発信する 10 名の科学系インフルエンサーを対象に、2023 年 11 月にインタビュー調査を実施した。特に炎上を経験したインフルエンサーを対象とし、彼らがどのようにして炎上に対処し、その後の活動にどのような影響があったかを明らかにした。

インタビュー調査の概要

・協力対象者の選定

Weibo で科学コンテンツを発信しており、100 万人以上のフォロワーを持ち、生物学の分野で炎上経験のある 10 名の科学系インフルエンサーを協力者として選定した。

・インタビューの形式

半構造化インタビューを実施し、自由な回答を促しつつ、重要なテーマについての具体的な知見を収集した。

・調査内容

- ①ソーシャルメディアで行っている科学的活動の経緯と動機を調べ、特にユーザーとのコミュニケーションの双方向性を中心に調査した。
- ②科学コンテンツを作成する際に使用する表現手法について調査した。
- ③攻撃的な投稿や炎上などの負のフィードバックに対する精神的負担について尋ね、炎上発生後の対処方法を調査した。

・分析方法

インタビュー調査によって得られたデータを、定性的データ分析手法の一つである修正版グラウ

ンデッド・セオリー・アプローチ (Modified-Grounded Theory Approach : M-GTA) を用いて分析した。

インタビュー調査の結果と考察

10 名の協力者に対するインタビュー調査の結果、科学系インフルエンサーはソーシャルメディア上での活動を通じて、科学者と一般市民の間の科学コミュニケーターのような役割を果たす可能性があることが示された。彼らの活動は一般市民に対して科学知識の普及を行うだけでなく、市民の反応に基づいて調整を行うという明確な双方向性を持っている。彼らの活動は、ソーシャルメディア時代における科学者と市民の相互理解に積極的な役割を果たしており、科学コミュニケーションとして評価できる。

ソーシャルメディアでの科学コンテンツの表現手法について、H. Holden Thorp は 2022 年、「慎重な表現」と「感情的な表現」の二つの傾向がある」ことを指摘した (Thorp, H. H. (2022). “Science and social media”. *Science*, 375(6581), 593)。しかし本調査によれば、「慎重」と「感情」という単一の枠組みで簡単に括ることはできなかった。10 名の科学系インフルエンサーが採用する表現手法はより多様で、少なくとも「慎重理性的なタイプ」、「活発感情的なタイプ」、「活発理性的なタイプ」の三種類に分類できた。また、科学系インフルエンサーがどのような表現手法を使っても、ユーザーからのフィードバックに対する理解を重視しており、ユーザーとの相互理解とコミュニケーションの双方向性を表している。

炎上などのユーザーからのネガティブフィードバックは、科学系インフルエンサーの行動に負の影響を与え、自由に表現することを躊躇させる結果となる。また、政治的リスクは、中国の科学インフルエンサーにとって最も懸念されるリスクの一つである。政治的リスクに配慮することで、自由な意見交換の場であることを期待されていたソーシャルメディアでのコミュニケーションが、いっそう自由ではなくなっていくと考えられる。

結論

科学系インフルエンサーがソーシャルメディアで行う双方向的なコミュニケーション活動は、科学コミュニケーションの発展に寄与していることが明らかになった。しかし、その双方向的なコミュニケーション活動に伴う、炎上などのネガティブフィードバックも、科学系インフルエンサーに大きな影響を与えている。インタビュー調査の結果、科学系インフルエンサーは炎上時に冷静な対応を心掛ける、誤解を解くための追加説明や謝罪を行う一方で、精神的負担も大きく、専門的なサポートを必要とする場合があることが明らかとなった。また、炎上を経験することで活動の見直しや改善が図られるケースも確認された。

以上の結果から、科学系インフルエンサーの活動を支援し、彼らが直面する問題に対処するための具体的な対策が必要であることが示唆された。今後、科学コミュニケーションの効果を最大化するためには、炎上リスク管理やメンタルヘルスサポート体制の強化が不可欠である。